

# 講師のバランス感覚



公演活動を主軸にしながら、わたしは普段は大学と専門学校で劇作と演技の講師をしている。講師の仕事をするようになってずいぶん時間が経つ。長いこと、講師の仕事をして、わたしが辿り着いた結論は、講師の仕事はサービス業であるということである。

大学にせよ、専門学校にせよ、わたしが何かを教える学生たちは、学費を払って学校に通っている人たちである。もちろん、学問的な分野には、例えば、料理とか車とか冷蔵庫のような目に見える形の商品は存在しないが、彼らは金を払っているのである。その学費に対して、講師はそれに釣り合うだけの満足感を与えなければならぬ。ただ高みから学生たちに「それじゃダメだ」と叱責するだけでは学生は授業がつまらなくなるにちがいない。まずは学生にとってその授業が「楽しい」と思わせるところから始めなければならない。そのためには学生にサービスをして、彼らをノセなければならぬ。

しかし、それだけを目的に授業を行うと、講師が学生に媚びへつらうだけの存在になりかねない。だから、「楽しい」という感覚を学生に与えながら、同時に常に厳しく学生と接しなければならぬ。講師と学生という線引きをきちんとしていなければならない。このへんの楽しさと厳しさのさじ加減が難しいところで、そのバランスを体得するまでに十年くらいかかるのではないか。

翻って、わたしのような専門的な分野の講師のみならず、理想的な学校教育とは、そのような文脈の上にあると思う。すぐれた先生は、楽しさと厳しさのバランス感覚に秀でている人である。

高橋いさを

〈劇作家・演出家

— SAWO BOOKSTORE 主宰〉